AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録（2014.12）平成２５年度:18.

半身麻痺のある転移性脳腫瘍患者の家族が在宅療養を受け入れるまでの気持ちの変化－一事例のインタビュー内容から－

鳥居 実穂子

半身麻痺のある転移性脳腫瘍患者の家族が在宅療養を受け入れるまでの気持ちの変化
－一事例のインタビュー内容から－

旭川医科大学病院　　鳥居実穂子

【目的】

退院に消極的だった右半身不全麻痺を認める肺腺癌転移性脳腫瘍患者の夫が、在宅療養を受け入れるまでの気持ちの変化を明らかにする。

【研究方法】

対象者は、右半身不全麻痺を認める肺腺癌左転移性脳腫瘍患者の家族１名とした。データ収集方法は、対象者に在宅療養を受け入れるまでの気持ちについて、インタビューを行った。同意を得たうえで録音したインタビューを逐語録に起こし、内容分析の手法により類型化を進め、カテゴリーを生成した。倫理的配慮としては、Ａ大学の倫理審査委員会の承認を受け、対象者に対して文書で説明を行い、承諾を得た。

【結果】

家族は60歳代の夫で、１泊の一時退院を経てから在宅療養を決断し自宅退院に至った。インタビューは退院してから５ヶ月後で、経過が順調に進んでいる時期に行った。インタビュー内容の逐語録から46のコードが得られた。内容としては「悪い方にばかり考えてしまう」「俺の所は狭いから無理」「俺一人じゃどうにもならなかった」「病院にいるより家にいたほうがいい」「家が明るくなった」などがあった。これらを分析した結果、６カテゴリーと10サブカテゴリーが見出された。以下カテゴリーを【　】、サブカテゴリーを〈　〉で示す。【妻の入院に伴う日常生活上の負担】が〈面会に行くことの負担〉〈日常生活の負担〉、【妻の入院に伴う精神的負担】は〈精神的な余裕のなさ〉〈ネガティブな思考〉、【自宅環境の厳しさ】は〈自宅環境の厳しさ〉、【周囲の支援】は〈MSWとケアマネージャーの支援〉〈他の家族の支援〉、【妻の病気に対する覚悟】は〈妻の病気に対する覚悟〉、【在宅療養に対する気持ち】は〈退院の決意〉〈在宅療養に関する満足〉で構成された。

【考察】

夫は妻の入院後、〈面会に行くことの負担〉や〈日常生活の負担〉を感じており、〈精神的な余裕のなさ〉や〈ネガティブな思考〉が巡っていた。また、医師から退院を提案された際は、〈自宅環境の厳しさ〉を訴えていた。このことから、夫は【妻の入院に伴う日常生活上の負担】や【妻の入院に伴う精神的負担】がある上に、【自宅環境の厳しさ】が重なり、退院に消極的だったことが考えられる。しかし、〈他の家族の支援〉や〈MSWとケアマネージャーの支援〉から自宅環境を整えることができたため、スムーズに在宅療養を受け入れることができた。この【周囲の支援】に加えて、夫は入院中から、麻痺がある状態や予後が限られている【妻の病気に対する覚悟】を持っていた。これらが夫の強みとなって〈退院の決意〉に至り、在宅療養へ進んだことが考えられる。自宅に帰った後は、「病院にいるより家に居たほうがいい」、「家が明るくなった」という〈在宅療養に関する満足〉を持っていることがわかった。